

第 31 回日本クラブユースサッカー選手権(U-15) 大会関西大会

暴力根絶の取り組みに関して ～ウェルフェアオフィサーの配置～

日本サッカー協会では、サッカー界における暴力根絶に向け、「しない、させない、許さない」をキーワードに取り組んでいます。

指導者に対する資質向上をサポートする取り組みを中心に取り組んできていますが（「しない」へのアプローチ）、この問題には、社会の意識、認識が大きく関わっています。指導者ばかりでなく、選手、役員、保護者をはじめ、関わるあらゆる人達が、この問題に対して意識を高め、雰囲気、文化を変化させていく必要があります（「させない、許さない」）。

「ウェルフェア」とは、幸福、快適な生活、福利等を意味します。サッカー、スポーツを楽しむ大前提である子どもたちの**安心・安全を守る**担当者が「ウェルフェアオフィサー」（以下 WO）です。

サッカー界における暴力根絶に関して一人一人がすべきこと

- 一人一人が、暴力・暴言が不要であるという認識を確認すること。
- 暴力・暴言は連鎖、再生産されうるということを認識すること。一人一人がそれを断ち切る力となること。
- 指導環境をオープンにすること、声を掛け合える、相談のできる環境をつくること。

大会ウェルフェアオフィサーの目的

大会に配置されるウェルフェアオフィサーの趣旨は以下の通りです。様々な都道府県サッカー協会や大会で、既に自主的に取り組んでいただいているところもあります。

- この大会では暴力根絶の問題に取り組むという意志表示
- 互いにフランクに声を掛け合える社会をめざしつつ、それを促進するために、その役割の人を置き、内外にそれを明確にする（この人はそれを担当する人であり、気づいたことがあれば声をかける。何か気づいたことがあったらこの人に伝えればよい、といった意味）。
- 管理、監視、取締り、処分をするのではなく、あくまでもサッカー仲間としての気づきを伝える。同じ言葉や態度でも不快に感じる人がいること、マイナスになりうること等。
- 指導者→選手のみでなく、サッカーの試合をつくるあらゆる要素を対象とする（選手やベンチから審判に対して、選手同士、サポーター等々）。
- 大会を通じた啓発、情報発信を行う。

第 31 回日本クラブユースサッカー選手権 (U-15) 大会関西大会

今大会では、以下の通り実施します。

- 指定した試合に一人 WO を配置する（JFA ナショナルトレセンコーチおよび、関西 CY 理事）。
- 監督会議において、チームに趣旨を説明する。
- 各試合直後に両監督に本部付近に集合していただき、簡潔に、試合に関してのテクニカル面の講評、また暴力根絶の観点から気づきがあれば伝え、意見交換を行う。
- 重大とみなされる案件があった場合は、別途対応する。
- 合わせて、来場者にもインフォメーションをし、趣旨のプロモーションをする。

関わる全員が皆で協力して良い大会にしましょう！ そして発信して行きましょう！